

保険医療材料専門部会

＜画像診断関係参考資料＞

平成17年11月18日

(社)日本画像医療システム工業会
会長 桂田 昌生

画像診断領域における重要論点(継続)

1. 保守維持管理諸費用の明文化

産業ビジョンでの命題である、医療の安全性、機器のライフサイクルコストの明文化は重要である。薬事法上での特定保守管理医療機器としての要件化を踏まえ、さらには医療法上の規制のあり方を議論し、診療報酬上での扱いを議論すべき。

従来より指摘されているように、所定点数に含まれるとの発言の明文化を即刻すべき。

2. 積算根拠の明確化

企業として技術革新の方向性と期待収益を見定める上でも適切な積算根拠の明確化が必要。

診断機能、精度についての評価を「臨床適応ニーズ」「臨床能力」「その技術の運用要件」「社会的QOL」「運用コスト必要資源」「医療経済学的分析」をもとに、総合的な評価体系のガイドラインについて論議をすべき。

3. アプリケーションソフトウェアの評価

高度なアプリケーションソフトウェアが提供する医療情報に対する適正評価をお願いしたい。

診療報酬改定に向けての意見書提出の経緯

- 「平成18年度診療報酬改定に関する業界要望」
【画医工発総第16-108号】
平成17年02月21日
- 「画像診断装置の性能による評価に関する論点メモ」
平成17年03月01日
- 「画像診断装置の価値評価への新たな評価手法導入について」
【画医工総発第17-45号】
平成17年08月10日
- 「画像診断領域におけるIT化の評価について」
【画医工総発第17-44号】
平成17年08月10日
- 「特定保険医療材料(フィルム)に係わる機能区分評価について」
【画医工発企調第17-44号】
平成17年10月21日

◆積算根拠の明確化:CT/MRIに見る診療報酬評価体系

撮影料
[撮影手技]

+

診断料
[診断手技]

+

画像診断管理加算
[専門医手技評価]

高



低

「撮影に係わる技術」
日本放射線技師会
調査業務分析
(共通して要する業務)

&

「機器運用コスト」
高機能機器、汎用機器の
市場導入価格調査は？



機能の線引きが曖昧

診断手技とは異なる
撮影手技の評価
が必要

例:高機能タイプ

この差はドクターフィである手技
により左右される

例:汎用タイプ

施設基準により要件を満たす
機能・要件を満たす技術の論点で
評価体系の構築が必要

◆積算根拠の明確化：診断手技

放射線専門医不在の施設は83.7%

◆CT(ヘリカル型)設置施設の83.7%では放射線科専門医が常勤していない。

◆マルチスライスCT導入施設においても半数以上の施設で常勤専門医がいない。

◆CTの設置台数：

①マルチスライスCTは設置台数の10%

②コンベンショナルCTを含めたシングルスライスCTが90%

(参考資料：医療タイムス 2005年10月24日 No1742 P33.34)

◆積算根拠の明確化：撮影手技

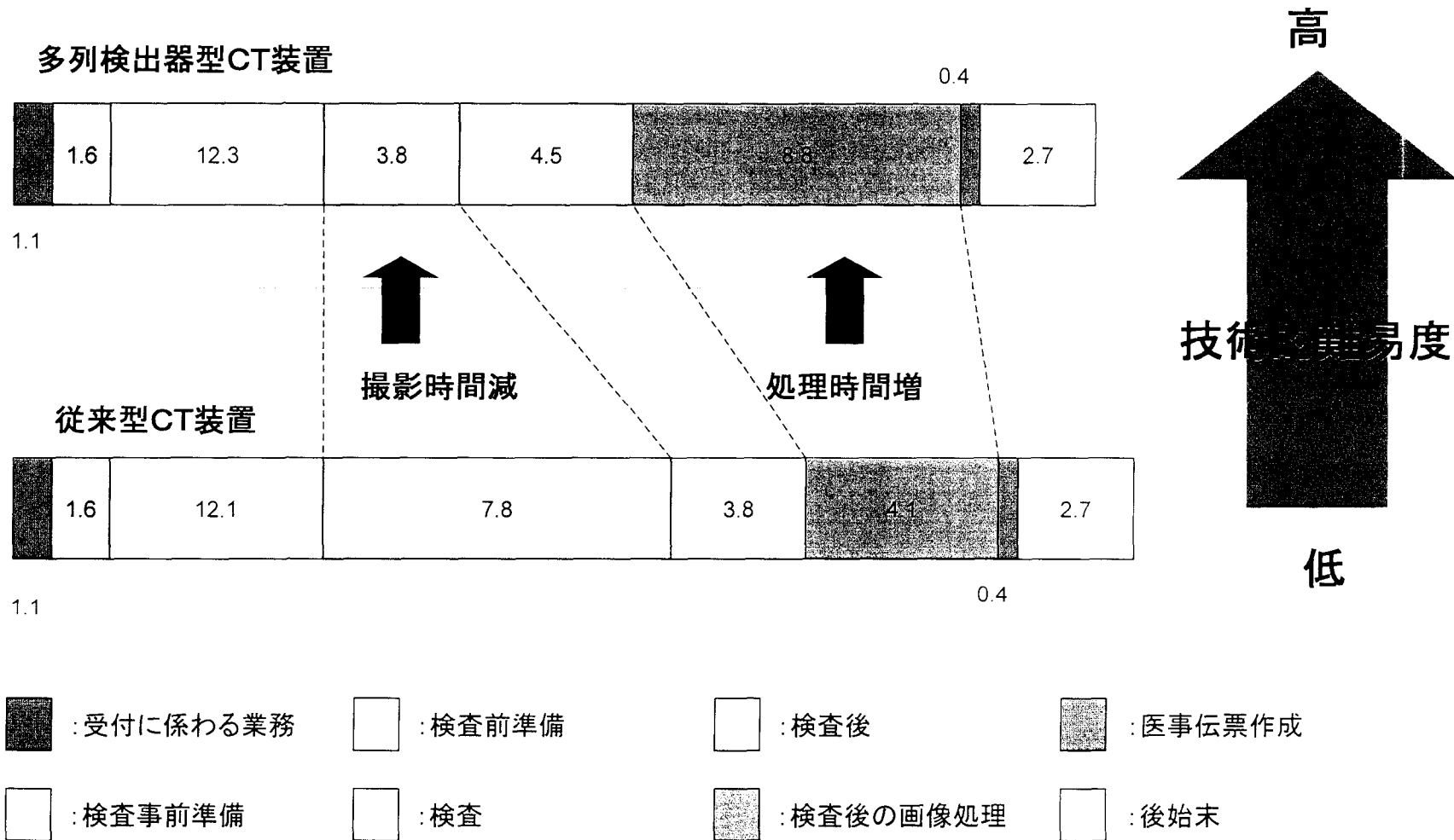
◆マルチCTとシングルCTとの比較

◆撮影時間は高速化されて、短縮

◆検査後の画像処理(3D関連処理、アンギオCT、血流計測、多時相ダイナミックなど)時間が増加

(参考資料：日本放射線技師会雑誌2005. Vol52 no635より)

CT検査における診療放射線技師の業務



◆アプリケーションソフトウェアの評価

◆アプリケーションソフトウェアの価値

- ⇒ 新しい診断機能、価値の創出
- ⇒ 診断機能、精度の向上
- ⇒ 安全性、有効性の向上



◆アプリケーションソフトウェアの考え方

特殊CT撮影、特殊MRI撮影について、新規技術の評価を踏まえ、施設基準を含めた再評価を検討いただきたい。

【例】

- ・MR: 拡散強調イメージング、灌流イメージング、脳機能イメージング
- ・CT: 冠動脈定量解析評価など

画像診断関係

在日米国商工会議所(ACCJ) 医療機器・IVD小委員会

1. 中医協における画像診断および検査専門委員会)の設立

2. 乳房X線撮影検査の特殊撮影化

乳房X線撮影検査(マンモグラフィ)について、胸部単純撮影と同じ分類になっているが、これには高い診断技術能力が要求され、撮影技術や装置にも異なる精度管理が求められるため、胸部単純撮影とは別分類を検討していただきたい。

3. ”先進画像加算”を導入して、新技術の推進ならびに医療提供の質の向上を進めていただきたい。具体的には、下記の技術等の適用を検討していただきたい。

例1)急性期脳虚血・脳梗塞の描出

急性期の脳梗塞に対して壊死に陥っていない組織を特定し、蘇生させるために、発症後、出来る限り早い時期にCT、或いはMRIの灌流画像、又は拡散強調画像の撮影を行なう。この画像診断によって入院期間の短縮、QOLの向上、及びトータルでの医療費の削減が期待できる。

例2)心筋虚血の描出

MRI、CTの心臓領域への適用については、目的に応じて、遅延造影、シネ、冠動脈、心筋灌流、などの撮影や、画像再構成、心機能解析、石灰化指数計算などを行なう。この画像診断によって冠動脈病変や心筋虚血の評価、疾病診断、治療方針の決定を期待できる。

なお、両例とも装置は高磁場MRI、マルチスライスCTを用いて、専門家(専門医、技師)の関与を施設基準とする。

4. 画像診断について、C2として評価されるための具体的必要条件を示していただきたい。

注) 1. は2004年9月28日、2. は2003年11月20日、3. 4. は2005年7月22日の定期会合での要望の再掲(2. 3. は一部改変)です。